

令和7年度

東北公益文科大学 地域共創センター事業報告



目次

<ページ>

令和7年度地域共創センターの活動	1
地域共創センター活動状況	5
事業報告書（ヒアリング及びマッチング事業）	7
（公益教養プログラム FORUM21）	11
（教養講座共創カフェ）	20
（学生活動支援）	25
（サービスラーニング支援事業）	28
（地方創生に向けた人材育成事業「ハタラクカタチ」）	32
受託事業・補助事業の報告	33
発行物のご案内	36
新聞記事	37

令和7年度地域共創センターの事業は
庄内開発協議会「公益のふるさとづくり活動補助金」
の助成を受けて行いました

令和7年度 地域共創センター事業の概要

地域共創センター

センター長	吉村 昇
地域連携部会長	澤邊 みさ子
産学官連携部会長	青木 孝弘
デジタル人材育成部会	広瀬 雄二
防災・環境部会	呉 尚浩

(1) 地域共創センターの役割

令和2年度より地域共創センターの事業を更に拡大し、以下の4部会で活動している。

①地域連携部会

地域との共創の仕組み及び活動のノウハウを生かし、庄内の地域共創の拠点として行政や企業、地域の人々と公益大をつなぎ、社会・地域課題の解決に取り組む。

②産学官連携部会

大学と外部機関とのパートナー関係を構築し、産学官連携を推進する。

③デジタル人材育成部会

IT技術を活用し、地域資源に新しい視点を創る研究を展開し、地域の文化を未来につなぐ人材育成に取り組む

④防災・環境部会

自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図る。

(2) 地域連携部会

①ヒアリングおよびマッチング事業

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行った。令和7年度は84件の依頼を受け付けた。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び地域連携部会員が実施、協力を行った。

②「公益教養プログラム FORUM21」、「教養講座共創カフェ」、等各種シンポジウムの開催

教職員、学生を対象に企画募集を行い、地域共創センター運営委員会での協議の上、令和7年度は「公益教養プログラム FORUM21」を8回開催した。また、学生や教員が企画する「教養講座共創カフェ」を4回開催した。

③「まちづくり活動・研修助成金」、「大学・地域活性化活動助成金」、「災害復興・防災活動支援助成金」の運営事業

「本学の活性化を目的とした学生による自主活動及び学生と地域との地域協働によるまちづくり活動」、「学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）」等に関する申請に対し、助成を行った。地域留学体験プログラムへの参加費、「IVUSA」による庄内の海岸清掃活

動旅費の2件の活動へ助成を行った。

④サービスラーニング支援事業

学生の学びを深める講座を3回開催し、学びの場を提供した。

⑤地方創生にむけた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問・取材し、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信した。令和7年度は、4社を訪問しインタビュー取材を実施した。記事をまとめ、冊子「ハタラクカタチ Vol.7」を発行し、本学学生への配布だけでなく、庄内地域の高校・県内大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。また、メンバーはやまがたフルーツPR隊としての取材・記事作成、庄内総合支庁主催「庄内の魅力体感・若者交流バスツアー」への参加、酒田市主催の企業見学ツアーにも参加した。

⑥受託事業・補助事業

補助事業として「地域共創による公益のふるさとづくり推進事業（庄内開発協議会）」の採択を受けた。また、産学連携洋上風力人材育成コンソーシアム（幹事校・長崎大学）に加盟し、「洋上風力発電人材育成事業費補助金（資源エネルギー庁）」の採択を受けた。

⑦学生及び大学の地域活動等に関する発信事業

地域共創センターで支援を行っている学生の地域貢献活動、「公益教養プログラム FORUM21」、「教養講座共創カフェ」、その他委託事業等に関する情報を随時、大学のホームページ、地域共創センターのSNS（Instagram、Facebook、LINE）、地元市町の広報誌、山形県生涯学習センター「山形県生涯学習情報提供システム」等において発信した。特にSNSでは令和7年度中に112件の投稿を行い積極的に発信した。令和7年度は印刷物として、冊子「ハタラクカタチ vol.7」、「地域共創センターパンフレット」を発行した。また、「ビジネスマッチ東北」へ出展し、大学の教育研究成果を発信した。

(3) 産学官連携部会

①共同研究・受託研究に向けた産学官連携の推進

大学戦略推進室との間で産学官連携に関わる情報を共有し、受託研究に関わる内容は大学戦略推進室が所轄し、それ以外は産学官連携部会が担当することに体制を整理した。その上で、外部から連携の申し込みがあった際の作業手順を示すフローチャートを作成した。また、令和5年度に作成した産学官連携用のホームページを適宜更新して、教員の持つ研究シーズの発信に努めた。さらに教員の専門分野に関する動画配信を検討し、準備した。くわえて、研究マネジメント人材育成のためのSDを大学戦略推進室と共同企画し、令和6年9月に会津大学の石橋史朗特任教授を講師に迎えて、「戦略的産学連携の推進とリスクマネジメント」をテーマに実施した。

②大学と外部機関との新たなパートナーシップの構築に向けた検討と取り組みの発信

洋上風力発電に関する新たな戦略的パートナーシップの構築に向けた検討を行った。遊佐町沖洋上風力事業では丸紅、関西電力などで構成する山形遊佐洋上風力合同会社が事

業者として決定されたことに伴い、産学官部会では学内情報交換会を2回開催して、リスクマネジメントを考慮しながら、教職員での情報共有を図った。また令和6年7月に発足した遊佐町沖洋上風力産業振興プラットフォームにオブザーバーとして参加し、当地域の地方創生につながる研究・企画の検討を進めている。さらに、全国7大学と再エネ事業者で構成される産学連携洋上風力人材育成コンソーシアムと意見交換を行った。

③アントレプレナーシップ教育を通じた起業マインド人材の養成

本学の起業研究所や、令和6年4月から開講の正課科目アントレプレナーシップ演習（春学期・秋学期）と連動しながら起業マインドを持つ人材の育成を推進してきた。同研究所の関わるシンポジウム・セミナーや、アントレプレナーシップ演習の講師として招聘した経済人との関係強化を通じ、県内外の起業家や起業支援に取り組む自治体、経済団体との幅広いネットワークを構築した。一連の取り組みの成果として学生の起業マインドが徐々に高まっており、ビジネスコンテストやビジネスピッチコンテスト（EO North Japan 南東北大会 NExT10、酒田市 SAKATA PROJECT DESIGNERS、長井市 DX コンテスト等）にて発表やプレゼンを行い、受賞する者も現れている。

(4) デジタル人材育成部会

①市内企業等と連携して実施する講義の開講

秋学期開講のプロジェクト型応用演習「酒田 DX（担当教員：広瀬）」は、酒田市産業振興まちづくりセンターサンロクの主導により市内 IT 関連企業の若手技術者の参画を得つつ授業を進めた。今年度も酒田市の総合計画をベースとした社会課題に学生が向き合い、デジタル技術をベースとした解決案を提示し、その一部を実装する形で成果発表を行った。他にもプロジェクト型応用演習「酒田 KOEKI マップの作成（担当教員：広瀬）」では酒田市と連携して地理に関する情報処理技術の基礎と実践方法について学び、「POS データ分析による売り場改善（担当教員：神田、松尾）」では A コープやわた店、株式会社 True Data、サンロクの協力を得て実施し、「知的な情報システムの提案と実現（担当教員：植田）」では成果発表会で市内企業より講評いただくなどした。

②市内企業等と公益大の学生による交流事業

12月25日に酒田市内の IT 関連企業6社からの参加を得て本学103・104教室にて学生との交流会を開催した。はじめに本学の授業2科目の履修学生による成果発表を行い、技術者からの有益なコメントを多数頂いた。その後、各社の紹介を聞いたうえでのブース説明会を開いた。学生・企業参加者相互に発表を聞いたあとの交流会ゆえ、ある程度接点を持ったうえでの会話が展開でき、一般的な企業説明会よりも充実した交流を図ることができた。

③市内高校の生徒を対象とした公益大の体験プログラム

1時限に大学総合案内と施設見学、2、3時限にメディア情報コースの各教員が体験型の模擬講義を実施した。県内高校唯一の情報科を有する光陵高校の生徒に分かりやすい形で大学の学びを体験してもらうことにより、地元進学を含めた具体的な進路検討のきつ

かけとなった。

(5) 防災・環境部会

①自治体、地域住民と連携した環境・防災教育の充実

イ 防災

行政・専門家・島民・ジオガイドと連携しながら、飛島における防災・減災のあり方について、学習会・現地調査・報告会を実施した。特に、プロジェクト型応用演習「防災の仕組みづくり」では、昨年度に引き続き、令和6年1月1日に発生した能登半島地震時における島民避難について、追加インタビュー調査を行い、改善策の提言をまとめ報告会を実施した（酒田市危機管理課、酒田市消防団、とびしま総合センター、鳥海山・飛島ジオパークガイドの会、NPO、地域おこし協力隊などが参加）。

ロ 環境

今年度から始動した改善促進海岸プロジェクトの一環として、庄内地域の大学生協働プロジェクト「山形県改善促進海岸クリーンアップ&交流事業」（主催：山形県改善促進海岸クリーンアップ実行委員会、防災・環境部会もメンバー）を実施し、遊佐町女鹿海岸の清掃活動と公益大にての交流活動を行った（公益大生 26 名、山大学生 11 人）。また、第 25 回飛島クリーンアップ作戦に実行委員として参加（当日は公益大より 22 名参加）。さらには、山形県庄内総合支庁主催、美しいやまがたの海プラットフォーム、防災・環境部会などの共催で、「海岸清掃ボランティア交流セミナー（海岸漂着物対策検討会）」（第 6 回「海ごみ環境教育リーダー育成研修」を兼ねる）を実施し、改善促進海岸の推進について報告・意見交換を行った。SDGs 科目「海ごみ問題と循環型社会デザイン」報告会において、山形県循環型社会推進課、庄内総合支庁環境課および水産振興課、鳥海山・飛島ジオパークガイドの会、NPO パートナースhipオフィス、企業ボランティア（庄内の街をビッカビカにしちやい隊）からの参加を得て、第 3 次山形県循環型社会形成推進計画へ対するアクションプランを提案した。また、海岸林整備活動として、万里の松原に親しむ会との協働で、酒田市主催「山をきれいにしてウォーキング」の関連行事参加（松くい虫被害の落ち枝処理、広葉樹植栽予定地見学）を実施。松くい虫被害の拡大に伴い、今年度からは新たに広葉樹を活かした森づくりの手法を検討し、Save the クロマツ 2025（庄内海岸のクロマツ林をたたえる会、山形大学農学部などと共催）、「自然環境の保全と共生」授業フィールドワークとして、飯森山の森林整備活動（参加者約 100 名）を実施。また、「飯森山・砂防林を育てよう」（庄内総合支庁・酒田市主催）森林整備活動に参加した。

令和7年度地域共創センター活動状況

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
1	5月10日(土)	9:30～ 12:30	教養講座共創カフェ 公益大に散らばる宝物	中研修室1・2 教育研究棟	28
2	5月20日(火)	14:20～ 17:00	酒田まつり 山車行列参加(学生引率)	酒田まつり会場	35
3	6月14日(土)	6:30～ 17:00	第25回 飛島クリーンアップ作戦	飛島荒崎海岸	70
4	6月21日(土)	9:20～ 15:00	庄内地域の大学生協働プロジェクト 「山形県改善促進海岸クリーンアップ&交流事業」	遊佐町女鹿海岸 中研修室1	44
5	6月20日(金) ～ 7月1日(火)		男女共同参画パネルの展示 (山形県男女共同参画センター「チェリア」との共催)	公益ギャラリー	—
6	7月5日(土)	10:30～ 12:00	公益教養プログラム FORUM21 「カタカナ英語」を考える、「カタカナ英語」から考える	中研修室1	27
7	7月16日(水)	13:15～ 14:45	サービスラーニング支援事業 食品ロスとエシカル消費	中研修室1	9
8	7月17日(木)	15:05～ 16:50	Sava the クロマツ 2025	酒田市美術館 付近	74
9	7月31日(木)	10:00～ 11:30	サービスラーニング支援事業 ハタラクカタチプロジェクト取材の仕方講座	中研修室3	6
10	8月7日(木)	18:00～ 19:30	教養講座共創カフェ 糍と発酵食で叶える健康な身体づくり	中研修室1	32
11	9月9日(火)	13:00～ 15:00	教養講座共創カフェ 公益大生と学ぶ! スマホサポート教室	中研修室1	40
12	9月12日(金)	9:00～ 15:00	地元高校情報科生徒のメディア情報コース体験プログラム	中研修室1ほか	30
13	9月17日(水)	15:00～ 16:30	地域共創センター事業報告会	中研修室1	15
14	10月11日(土)	11:00～ 15:00	古着アップサイクルワークショップ(公翔祭企画)	公益ホール	—
15	10月15日(木)	13:10～ 14:55	自然環境の保全と共生・フィールドワーク	酒田市美術館前 飯森山西保安林	110
16	10月30日(木)	17:00～ 18:45	サービスラーニング支援事業 地方商店街はなぜ衰退するのか?～100円商店街事業に見る活性化案～	中研修室1	44
17	11月10日(月)	18:30～ 20:00	公益教養プログラム FORUM21 公的年金の必要性を理解し社会とつながろう	中研修室1	18
18	11月13日(木)	10:00～ 17:00	ビジネスマッチ東北2025秋	夢メッセみやぎ	—

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
18	11月16日(日)	13:30～ 15:00	公益教養プログラム FORUM21 「テレビと芸能界」～その関係性から見える課題	中研修室1	14
19	11月20日(木)	18:30～ 20:00	公益教養プログラム FORUM21 美濃部達吉の憲法論と大正デモクラシー	中研修室1	24
20	12月9日(火)	10:40～ 12:25	公益教養プログラム FORUM21 海洋の安全保障と国際制度	公益ホール	90
21	12月12日(金)	12:30～ 13:00	酒田舞娘による演舞披露会(合同会社酒田小鈴、酒田市との共催)	公益ギャラリー	20
22	12月15日(月)	15:05～ 16:35	公益教養プログラム FORUM21 中国が狙う国際新秩序	公益ホール	90
23	12月18日(木)	18:30～ 20:00	公益教養プログラム FORUM21 監査ってなんだ	中研修室1	21
24	12月19日(金)	12:30～ 13:00	酒田舞娘による演舞披露会(合同会社酒田小鈴、酒田市との共催)	公益ギャラリー	20
25	12月20日(土)	10:00～ 11:30	教養講座共創カフェ 一生モノの英語学習法セミナー	中研修室1	51
26	12月25日(木)	14:00～ 17:00	学生と酒田市内IT関連企業交流会	104教室	44
27	1月31日(土)	15:00～ 16:30	公益教養プログラム FORUM21 私はほんのすこしでも自分を方向づけようとしたことがあった だろうか?	公益ホール	70
28	2月26日(木)	10:00～ 12:00	海岸清掃ボランティア交流セミナー (海ごみ環境教育リーダー育成研修)	TOCHiTO 交流棟1階	25

ヒアリング及びマッチング事業

事業名	ヒアリング及びマッチング事業	
目的	ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行う。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び運営委員が実施協力を行う。	
	ヒアリング内容	依頼・相談者
1	「令和7年度やまがた地域創生事業助成金」の対象事業募集について	公益財団法人山形県生涯学習文化財団
2	大山犬まつり「頭屋の行列」への参加者募集	大山犬まつり実行委員会
3	酒田まつり「時代行列」への参加者募集	酒田まつり実行委員会
4	「大学生等サイバーパトローラー」の募集	山形県警察本部生活安全部 サイバー犯罪対策課
5	大学生ボランティア活動向け助成金制度「未来へのタスキ」について	東北労働金庫 営業統括部
6	「エンジョイ金峯山登山①」の参加者募集	山形県金峰少年自然の家
7	「酒田まつり山車行列」への募集について	酒田市地域創生部交流観光課
8	七窪思恩園での学習支援ボランティアの募集	NPO 法人セイブアライブ
9	「じろで庄内 2025」でのボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター
10	「令和7年度山形県中心市街地・商店街活性化支援事業費補助金（次世代チャレンジ人材育成事業）」募集について	山形県産業労働部 商業振興・経営支援課
11	山形県若者がつなぐ・つながる地域おこし推進事業費補助金の周知について	山形県しあわせ子育て応援部 多様性・女性若者活躍課
12	山形県学生環境ボランティア「やまカボ・サポーター」募集	NPO 法人環境ネットやまがた
13	「第51回鶴岡市子どもまつり」のボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター
14	第24回「身近な川や水辺の健康診断」に係る参加者募集	美しい山形・最上川フォーラム
15	「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の参加者募集	美しい山形・最上川フォーラム
16	「酒田市の観光について考える市民ワークショップ」の参加者募集	酒田市地域創生部交流観光課
17	子ども食堂でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
18	令和7年度次世代人材育成事業「ユースリーダー養成講座」の受講者募集	山形県男女共同参画センター 「チェリア」
19	チェリア塾公開講座 in 村山「ジェンダー平等でどう変わる、どう変える」の受講者募集	山形県男女共同参画センター 「チェリア」
20	「夏休み宿題お手伝い教室」協力ボランティア募集	酒田市教育委員会社会教育課

	ヒアリング内容	依頼・相談者
21	「しょうない氣龍祭」での飛龍/姫龍の担ぎ手募集	庄内町商工観光課
22	講演「読み書き困難の理解と支援」の聴講者募集	鶴岡市ボランティアセンター
23	子ども向けイベント「海の生き物を観察」でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
24	「港南フェス 2025」の実行委員募集について	港南コミュニティ防災センター
25	「光ヶ丘地区松林整備ボランティア」参加者募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部森林整備課
26	「食の都庄内サマースクール」でのボランティア募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課
27	やまがたフルーツ PR 隊「YFP150」の募集	山形県観光文化スポーツ部 観光交流拡大課
28	男女共同参画パネルの展示について	山形県男女共同参画センター 「チェリア」
29	「ボランティアスタッフ講習会 兼 自然体験活動講習会」の実施について	山形県金峰少年自然の家
30	十坂小学校の夏休み中の学習ボランティア募集	酒田市立十坂小学校
31	庄内地域の企業おしごと見学・体験イベントでの「盛り上げ隊」の募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課
32	着衣泳講習会の際のボランティア募集	酒田地区広域行政組合 消防本部
33	講演「子どもたちのこころの危機に向き合おう～『助けて』が言えない子どもたちにどうかかわるか～」の聴講者募集	鶴岡市ボランティアセンター
34	子ども向け BBQ イベントでのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
35	余目第三まちづくりセンター事業でのボランティア募集	余目第三まちづくりセンター
36	「-秋田発-地域づくりワークキャンプ」の参加者募集	秋田県 あきた未来創造部 地域づくり推進課
37	当日ボランティアスタッフの募集について	赤川花火大会実行委員会
38	「鶴岡イノベーションプログラム 2025」の参加者募集	荘内銀行地方創生部
39	「夏のボランティア体験 2025」の募集について	酒田市ボランティア・公益活動センター
40	「鶴岡市内川 灯籠流し」でのボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター
41	包括連携協定の締結ならびに本学とイオン三川間の無料バス運行について	イオンモール(株) イオン東北(株)
42	「山形バリアフリービーチ大作戦 in マリンパークねずがせき 2025」でのボランティア募集	医療法人社団 みつわ会
43	「カヌーツーリングデー」の参加者募集	山形県金峰少年自然の家

	ヒアリング内容	依頼・相談者
44	「あそぶ！まねぶ！夏休みこども大学（楽）」のボランティア募集	NPO 法人 明日のたね
45	「NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 全国大会 第4回全国の集い in 鶴岡 2025」でのボランティア募集	(株)瀬尾医療連携事務所
46	「第14回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」でのボランティア募集	酒田市教育委員会 スポーツ振興課
47	酒田市政報告会での演奏披露について（学生出演依頼）	酒田市議 佐藤猛 後援会
48	「令和7年度ひきこもりサポーター養成講座」の実施について	山形県健康福祉部 障がい福祉課
49	「ユニバーサルビーチフェスティバル in ねずがせき」でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
50	「庄内の魅力体感・若者交流モニターバスツアー（仮称）」の参加者募集	山形県庄内総合支庁 総務企画部総務課
51	「担い手講座」の参加者募集	酒田市健康福祉部 高齢者支援課
52	「酒田の花火」のボランティア募集	酒田の花火実行委員会
53	「光ヶ丘地区松林整備ボランティア」募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部森林整備課
54	秋田県仙北市への災害ボランティア募集について	酒田市ボランティア・公益活動センター
55	「いす-1GP（新庄）」への参加者募集	NPO 法人アンプ
56	「クッキング&温泉体験」でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
57	グローバル社会貢献プロジェクト「Green Tea for good」でのボランティア募集（玉簾の滝での景観保全活動）	山形県県土整備部 県土利用政策課
58	発達に凸凹のある子どもと遊んでくれるボランティアの募集	とまり木つくる会
59	「文化祭」への学生出演依頼、スマホ教室開催依頼について	宮野浦コミュニティ振興会
60	「山形県アクセシブルツーリズム理解促進研修会」への参加者・ボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター
61	第20回「SYD ボランティア奨励賞」の応募及び広報について	公益財団法人修養団
62	研修会「知っていますか？ヤングケアラーのこと～当事者の人生から考える支援のあり方～」の聴講者募集	酒田市健康福祉部 こども未来課
63	「エンジョイ金峯山登山②」の参加者募集	山形県金峰少年自然の家
64	「秋祭り&芋煮会」でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
65	「山形紅花再生 SDGs 酒田プレフェスタ」の参加者募集	飽海地域史研究会
66	「羽黒山入域協力金」実証実験でのボランティア（有償）募集について	出羽三山神社

	ヒアリング内容	依頼・相談者
67	令和7年度「人権フォーラム」の参加者募集	酒田市市民部共生社会課
68	闇バイト防止に関する広報活動への協力について	山形県警察本部生活安全部 サイバー犯罪対策課
69	第58回「ひらた文化祭」でのボランティア募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
70	「酒田しごと見本市」の参加者募集	山形県庄内総合支庁 総務企画部総務課
71	「酒田舞娘」の体験会・鑑賞会開催について	酒田小鈴合同会社
72	墓石を活用したアートプロジェクトのアイデア出しの参加者募集	(同)とびしま
73	「夢ケーキ作り」でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
74	「酒田市子ども食堂エピソード共有公開ワークショップ」の聴講者募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
75	「くらしス×コーヒーセミナー」の参加者募集	(福)鶴岡市社会福祉協議会
76	「みんなのSORAI イベント」でのボランティア募集	KIDS DOME SORAI
77	「鶴岡まるっと地域医療」の聴講者・参加者募集	(株)瀬尾医療連携事務所
78	「山形SDGsアクションワークショップ」への学生出演依頼	(株)山形新聞社
79	「望年会」でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
80	「鶴岡雑物語モニターツアー」の参加者募集	鶴岡市商工観光部観光物産課
81	そり滑り企画でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
82	「デザイン活用セミナー～おいしいを2倍にする方法～」の参加者募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課
83	「地域課題解決インターンシップ in 山形県酒田市」の参加者募集	ENEOS リニューアブル・エナジー(株)
84	「食の都庄内」交流会の参加者募集	山形県庄内総合支庁 地域産業部地域産業経済課

公益教養プログラム FORUM21

事業名		公益教養プログラム FORUM21		
目的		当センターが企画・運営し、学内外の講師による幅広いテーマのプログラムを課外の教養講座（公開講座）として開催。		
	開催日時	タイトル名・テーマ等	講師・報告者	役職・職名
1	7月5日 (土) 10:30～12:00	「カタカナ英語」を考える、 「カタカナ英語」から考える	大山 慎一	本学教授
2	11月10日 (月) 18:30～20:00	公的年金の必要性を理解し社会とつながろう	阿部 公一	本学教授
3	11月16日 (日) 13:30～15:00	「テレビと芸能界」～その関係性から見える課題	両角 晃一 氏	元株式会社テレビ朝日 常務取締役
4	11月20日 (木) 18:30～20:00	美濃部達吉の憲法論と大正デモクラシー	森元 拓	本学教授
5	12月9日 (火) 10:40～12:25	海洋の安全保障と国際制度	松崎 みゆき 氏 樋口 恵佳	防衛省海上幕僚監部 人事教育部 1等海佐 准教授
6	12月15日 (月) 15:05～16:35	中国が狙う国際新秩序	伊集院 敦 氏	日本経済研究センター 首席研究員
7	12月18日 (木) 18:30～20:00	監査ってナンだ	松尾 慎太郎	本学准教授
8	1月31日 (土) 15:00～16:30	私はほんのすこしでも自分を方向づけようとした ことがあったらどうか？	温井 亨	本学教授

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	「カタカナ英語」を考える、「カタカナ英語」から考える		
開催日時	令和7年 7月 5日(土) 10:30 ~ 12:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>2024年度、山形県における教育、学術及び文化等の振興に関し、特に功績をあげた者を表彰する「山形県教育功労者表彰」の学校教育分野で受賞した大山慎一教授を講師とし、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に開催した。</p> <p>カタカナ英語の始まりとして「明治初期には英語の音をカタカナで表記した辞書が出版された。昭和20年に発行された『日米會話手帳』は、第二次世界大戦後から欧米の文化を猛スピードで取り入れようと、360万部売り上げた」と説明した。子ども達の学習面では、「完璧な発音でなくても『相手に伝わるのが大切』と子供達に思ってもらうことが重要。『カタカナ英語』を学習の道具とし日本語訛りを矯正しないことで、発音する不安が軽減され、発話や学習を促進する可能性がある」と話した。</p> <p>最後に「コミュニケーションを取るにはまず話してみることが大切で、正しい発音はコミュニケーションの中で学んでいくことができる。『カタカナ英語』は恥ずかしいものではないので、アクセントと文章の区切りに注意しながら使って欲しい」と呼び掛けた。</p>		
報告者	所属・職名	東北公益文科大学 教授	
	氏名	大山 慎一	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	27名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて27名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「難しい内容かと少し緊張したが、授業のように笑いありでも面白かった」「日本人が生んだカタカナ英語をこれからも使っていくつ、積極的に会話をして英語が上手になれるよう努力していきたいと思った」「カタカナ英語の必要性について、コミュニケーションを前提に深く考えることができた」「(中学校の英語教諭の方から)カタカナ英語が学習を促進する可能性があることに勇気づけられた」などの感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	公的年金の必要性を理解し社会とつながろう		
開催日時	令和7年 11月 10日(月) 18:30 ~ 20:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>教育実践に顕著な成果をあげた教員を表彰する本学独自の制度「東北公益文科大学 ベストティーチャー」を2022年度に受賞した阿部公一教授を講師とし、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に開催した。</p> <p>公的年金への加入と必要性について「公的年金がなければ任意加入の私的年金のみになり、私的年金は長寿者のみが積極的に購入すると保険料収入総額に対して年金給付総額が多くなるため、保険料を支払えない消費者は市場原理から排除される。社会みんなに対するリスクシェアよりも経営維持のため保険料を支払うことができる消費者のみに販売する『クリームスキミング問題』を解決するには、すべての国民が年金制度に加入する必要があり、非排除性の根拠から『20歳に達したとき』とし、自動的に被保険者資格を取得することとなった」と話した。</p> <p>最後に「20歳の学生が実際に受給するのは40年後。分かりやすく若者に公的年金の仕組みを理解してもらうため、今後もより効果的な年金広報・教育に取り組む」と述べた。</p>		
報告者	所属・職名	東北公益文科大学 教授	
	氏名	阿部 公一	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	18名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて18名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「なぜ公的年金が必要なのか、私的年金では発生しやすいクリームスキミング問題の解決など、具体的に学ぶことができ、改めて公的年金の必要性を理解することができた」「公的年金の広報や教育による研究について『これが自分が社会に対してやるべきことだ』と考えていると伺い感動した」「公的な年金がなければ、私的年金を運営する会社、消費者のどちらも苦しい状態になってしまうことを学んだ」などの感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	「テレビと芸能界」～その関係性から見える課題		
開催日時	令和7年 11月 16日(日) 13:30 ~ 15:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>国内外の時事問題について幅広い知見をお持ちの両角氏より、フジテレビ問題を取り上げ、テレビ番組の歴史や、テレビ局とタレントの関係、テレビ局内でのハラスメントなどについてお話いただいた。</p> <p>両角氏は「企業側にハラスメントが蔓延し、事なかれ主義的な対応から適切な対処がされなかったことが分かる。企業の意思決定層に男性が多く同質性の高い構造によってハラスメントが容認されやすい企業風土が作り出されている。この男性優位の価値観はフジテレビだけでなく、一般企業、学校、家庭でも起こりうること」と説明した。</p> <p>最後は参加者に「現在多くの企業でハラスメント講習やコンプライアンス講習を実施しているが、これは社員だけでなく、社長や取締役などの役員も受ける必要がある。今回の『フジテレビ問題』は特殊な事案と矮小化せず、自分ごととしてとらえ意識改革につなげていく必要がある」と呼び掛けた。</p>		
講師	所属・職名	元株式会社テレビ朝日 常務取締役	
	氏名	両角 晃一 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	14名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて14名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「実際にフジテレビの記者会見に参加したということで貴重なお話を聞くことができ良かった」「フジテレビの問題からテレビ業界の様々な問題についてご自身の意見も交えてお聞きすることができて、有意義となった」「ニュースキャスターを目指しておりジャーナリズムにも興味があったので、実際のメディア現場についてのお話はとても参考になった」などの感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	美濃部達吉の憲法論と大正デモクラシー		
開催日時	令和7年 11月 20日(木) 18:30 ~ 20:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>優れた研究成果をあげた教員を表彰する本学独自の制度「東北公益文科大学 ベストアワード」を2024年度に受賞した森元拓教授を講師とし、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に開催した。</p> <p>大正デモクラシーを招来させた思想は「一般的に吉野作造の民本主義と美濃部達吉の天皇機関説であると言われているが、天皇機関説にはその力がない。美濃部の憲法学で重要なのは彼の法の妥当根拠論（憲法解釈の理論）であり、『反法実証主義』的性格を有している彼の憲法解釈は、天皇の絶対的支配権を否定することを意味する」と話した。</p> <p>最後に「憲法学者としてはマイナーな存在だった美濃部は1912年の天皇機関説論争以降、『時代の寵児』『最も影響力のある学者』へと押し上げられた。美濃部の反法実証主義的な憲法解釈が社会的影響力を有するようになったことを意味し、後の制限君主制や政党内閣制などへの途を理論的に開いたこととなる。つまり美濃部の反法実証主義が大正デモクラシーをもたらしたと考える」と述べた。</p>		
報告者	所属・職名	東北公益文科大学 教授	
	氏名	森元 拓	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	24名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて24名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「予備知識がない状態で話を伺ったのですが、大変分かりやすく面白かった」「大変おもしろく今後、より学びを深めていきたいと思えた」「自分の専門外の部分の講話だったが、講師の先生の熱量が伝わってきて、大変よかった」「法思想史の専門というのは初めて聞いたが、人の魅力を掘り下げていく楽しい研究だなと思った」などの感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	樋口 恵佳
事業名	海洋の安全保障と国際制度		
開催日時	令和7年 12月 9日(火) 10:40 ~ 12:25		
会場	酒田市公益研修センター ホール		
内容	<p>本学の講義である「国際海洋法」を市民の方へ公開した。</p> <p>○樋口恵佳准教授ミニ講義「国際法の考え方」</p> <p>国際法の考え方について、学部の授業から抜粋する形で国際法の基礎知識を講義した。国際法は国と国との国際約束であること、条約に同意すれば遵守義務が生ずるということ、国際法は法学であるので、感情的な評価ではなく法のメガネを通して合法・違法を判断すること等を伝えた。</p> <p>○松崎みゆき氏講義「海洋法と海上自衛隊の活動」</p> <p>松崎一佐のプロフィールや幹部学校での体験・留学体験から、世界から見た海洋経済・海上輸送における日本の位置づけ、かつて国外に展開することが議論になっていた自衛隊であるが、現在海上自衛隊は国内外において活躍するようになっていること、国際海洋法の知識が活かせる等、多岐にわたり実体験を元にした詳細な講義をしていただいた。</p>		
講師	所属・職名	防衛省海上幕僚監部人事教育部 1等海佐 東北公益文科大学 准教授	
	氏名	松崎 みゆき 氏 樋口 恵佳	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体	内閣府総合海洋政策推進事務局 /防衛省海上幕僚監部防衛部、自衛隊酒田地域事務所		
参加人数	約90名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて約90名の方に参加いただいた。</p> <p>【良かった点】講義をミニ講義+一般講義とすることで、講義全体を60分程度に抑えることができた。講義後は一般市民や学生から意欲的な質問が多く寄せられ、またそれに答えるための時間をとることができたように思う。</p> <p>【反省点】ゲストの講義内容がややリクルート面を強く押し出した内容であり、また本学樋口からのミニ講義も基礎的な内容の10分程度の時間配分だったことから、講義全体で勉強や情報提供という要素がやや薄まっているように感じた。次年度も計画するとすれば、実質的な講義の時間を確保したうえで、ゲストと本学教員との講義内容を事前にすり合わせる等の調整が必要であるように感じた。自衛隊に対しては、昨年度のように別途学生対応の時間を設けるなどの提案ができるようにも感じた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	中国が狙う国際新秩序		
開催日時	令和7年 12月 15日(月) 15:05 ~ 16:35		
会場	酒田市公益研修センター ホール		
内容	<p>本学の講義である「メガトレンド論」を市民の方へ公開した。中国の政治・経済について著名な伊集院氏をお招きし、中国がめざす国際秩序づくりや同国の国内情勢などについてお話いただいた。</p> <p>中華人民共和国が建国された1949年以降の新中国の外交の歩みを挙げ、習近平国家主席の「新時代」の戦略について、「100年に1度の『グローバル・ガバナンスの歴史的転換点』と時代認識しており、『韜光養晦』から、『奮発有為』へと姿勢を変えている。上海協力機構(SCO)首脳会議での習近平主席の演説などから『多極化した世界を目指している』ことが読み取れる」と話された。経済面では「アメリカ・ファースト」を掲げる米国のトランプ政権を意識し、G20などの国際会議に参加し、反保護主義・多国間貿易主義を訴えていると指摘した。</p> <p>最後は参加者に「日頃から新聞を読むとより理解が深まる。ニュースで世界情勢が取り上げられていたらぜひ見て欲しい。今後の中国の動向にも注目して」と呼び掛けた。</p>		
講師	所属・職名	日本経済研究センター 首席研究員	
	氏名	伊集院 敦 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	約90名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて約90名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「現在の中国の状況を分かりやすく、広い視点で解説していただいた」「中国の戦略に対し、日本はどう対応すべきか難しい課題だと思った」「中国の経済成長や貿易の拡大が世界にどのような影響を与えているかについても学ぶことができ、ニュースだけではつかみにくい背景を知れた」などの感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	監査ってナンだ		
開催日時	令和7年 12月 18日(木) 18:30 ~ 20:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>教育実践に顕著な成果をあげた教員を表彰する本学独自の制度「東北公益文科大学 ベストティーチャー」を2024年度に受賞した松尾慎太郎准教授を講師とし、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に開催した。</p> <p>監査の定義や役割について話し、自身の考えについて「監査は委託者、受託者、監査人の3者が信頼で結ばれ、委託者と受託者の双方に監査に対する需要は存在する。テクノロジーやAIの進化によって効率的に監査が行えるようになった今、よく聞くこと、気になった点を再び見ることが重要であり、議論を交わし、不確かな関係者間の信頼を高める/強めることが監査の役割と考える」と述べられた。</p> <p>最後に「監査は、監査を受ける立場にある人の主張を監査人がよく聞いて、保証によって信頼を向上させることを通じて、潜在的な利害の対立を有している人同士が手を取り合うことを支援してくれる公益に資する行為。監査を受けることで利害対立を乗り越え新たなつながりが生まれるポジティブなものとして認識いただきたい」と話した。</p>		
報告者	所属・職名	東北公益文科大学 准教授	
	氏名	松尾 慎太郎	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	21名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて21名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「監査の意義を考えることができた」「監査が誰のためにあるのか、経営者のためなのか、株主のためなのか、考えさせられる講演だった」「監査をネガティブなイメージから脱却させ、利害対立を超えたポジティブなコミュニケーションとして位置づけ取り組んでいらっしゃることに共感した」などの感想が寄せられた。</p>		

FORUM2 1 活動報告書		担当者	教務学生課
事業名	私はほんのすこしでも自分を方向づけようとしたことがあったらどうか？		
開催日時	令和8年 1月 31日(土) 15:00 ~ 16:30		
会場	酒田市公益研修センター ホール		
内容	<p>本学で長きにわたり教鞭をとってこられた温井亨教授の定年退職に伴い、最終講義として開催した。温井教授は、大学卒業後はミラノ工科大（イタリア）に留学。建築事務所にて勤務し、1994年から東北芸術工科大学の助手、2010年から東北公益文科大学の准教授を務め、2013年から現職。</p> <p>表題は2年生進級時のコース分けガイダンスで温井教授が学生に言ってきた言葉であり「親、世間、収入などから自分を方向づけるのではなく、自分の内から湧いてくるものに従って」と話した。温井教授の交友関係や山形県に移住してから携わってきた、村山市上五十沢集落の村づくり、山形市立第一小学校の旧校舎の保存・再生、プロポーザル審査に関わった建築などについて、どんな思いでどのように取り組んできたかなどを説明した。本学を課題解決に向けて専門分野を超えて様々な視点から学ぶ「リベラルアーツの大学」と比喻し、「まちづくりは1人ではできない。賛同して動き出せるような面白い人をつくる大学になって欲しい」と述べた。</p>		
報告者	所属・職名	東北公益文科大学 教授	
	氏名	温井 亨	
主催	東北公益文科大学 教務学生課		
協力団体	東北公益文科大学 地域共創センター		
参加人数	約70名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて約70名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「貴重な建築に関するお話や先生の生き方など沢山のことをお聞きできて、とても良かった」「身近な町や街並み、建物の新しい見方ができるようになって見る世界がより楽しくなった」「先生が取り組んでこられたことがとても面白かった」「様々なことに挑戦できる今、自分を信じて好きなことを追い求めて走り続けてもいいのだと決心がついた」などの感想が寄せられた。</p>		

教養講座 共創カフェ

事業名	教養講座共創カフェ		
目的	本学教員や学生が話題提供者となり、小規模で双方向形式の講座として開催する。		
	開催日時	タイトル名・テーマ等	企画者
1	5月10日 (土) 9:30～12:30	公益大に散らばる宝物	地域共創センター
2	8月7日 (木) 18:00～19:30	糍と発酵食で叶える健康な身体づくり	澤邊 みさ子 教授
3	9月9日 (火) 13:00～15:00	公益大生と学ぶ！スマホサポート教室	サークル「ゼロ」
4	12月20日 (土) 10:00～11:30	一生モノの英語学習法セミナー	大山 慎一 教授

共創カフェ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	公益大に散らばる宝物		
開催日時	令和7年 5月 10日(土) 9:30 ~ 12:30		
会場	酒田市公益研修センターおよび教育研究棟2・3階		
内容	<p>本イベントは1年生同士の交流拡大を目的に本学保護者会よりご支援いただき、開かずの箱様の校内周遊型謎解きキット「校舎に散らばる宝物」を使用して開催した。</p> <p>くじ引きでチームに分かれ、酒田市公益研修センターおよび教育研究棟2・3階に設置された12個の謎を解いた。12個の謎を解き、合言葉を導きだしたチームにはチェックポイントにて次の謎を貰う。</p> <p>優勝チームには酒田米菓株式会社様の商品詰め合わせが景品として贈られた。また、謎解き終了後は別会場に移動し、昼食として庄内地域の飲食店である「おにまる」のおにぎり、「OLAHO」「風花園」のオードブルを食べながら交流した。</p>		
講師	所属・職名		
	氏名		
企画者	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	28名		
感想	<p>本学学部1年生28名が参加した。</p> <p>参加者アンケートでは、「謎を解きながら交流することができたので良かった」「初対面の人とチームということで緊張したけど、協力してクイズに挑戦できて良かった」「本当に楽しくて最近の1番の思い出になった」「新たな友達ができただけで嬉しかった」などの感想が寄せられた。</p>		

共創カフェ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	糀と発酵食で叶える健康な身体づくり		
開催日時	令和7年 8月 7日(木) 18:00 ~ 19:30		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>糀などの発酵食を使用した、食事を提供している「庄内発酵堂」のオーナー及び「食」のトータルコーディネーターを行う Atelier Lien の代表である三木裕美氏をお招きした。当日は塩麹調味料を使用したにんじんラペ、糀甘酒をご提供いただいた。</p> <p>麹菌と麹について「麹菌は地球上で日本にしか存在しない日本の『国菌』。麹の酵素は発酵の過程で事前に栄養素が分解されているため、体の中の消化負担を軽減し、効率的に栄養を摂取できる。腸の善玉菌を増やし、ビタミン類を生成できるのはカビの中で麹だけ」とご説明いただいた。</p> <p>また、「麹で腸内環境を整えると身体の土台が安定し、飲酒やファストフードを食べても数日で体内の酵素のバランスが元に戻る」とお話しいただいた。</p> <p>最後に「庄内地域は食に恵まれた土地。豚肉や野菜に麹を混ぜるだけでより健康に良い特別な食事になり、私たちが口にすることは、自分自身を造ることに繋がる。一食一食を大切に美味しく、楽しくお食事していきましょう」と呼び掛けられた。</p>		
講師	所属・職名	庄内発酵堂、アトリエリアン	
	氏名	三木 裕美 氏	
企画者	本学 澤邊 みさ子 教授		
協力団体			
参加人数	32名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて32名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「実際に『糀甘酒』や『麹調味料』を試食させていただき、より発酵食品を実感することができた」「自分の健康的な生活に役立ちそうな内容だった」「家庭でも麹調味料を使って、いろいろな料理に挑戦してみたいと思った」「なぜ麹が体にいいのか、どう摂取したらいいのかがわかり勉強になった」などの感想が寄せられた。</p>		

共創カフェ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	公益大生と学ぶ！スマホサポート教室		
開催日時	令和7年 9月 9日(火) 13:00 ~ 15:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>これまで酒田市役所や北新橋 2 丁目自治会、酒田玉芳庵などでスマートフォンの使い方教室やPayPay の使い方講座を実施してきた本学サークル「ゼロ」の学生が企画・運営。「ゼロ」は課題挑戦型インターンシップにて提示された課題「高齢者がスマホを使いこなせるようにするには」(酒田市デジタル変革戦略室)に取り組んだ学生らが立ち上げた。</p> <p>常時個別のお悩み相談・解決を行い、13:00 からはLINE、14:00 からは Instagram の使い方講座を実施した。</p>		
講師	所属・職名	本学サークル「ゼロ」	
	氏名	安達稜巧、木村脩斗、佐藤貴俊、鈴木悠馬、佐藤弘将	
企画者	本学サークル「ゼロ」		
協力団体			
参加人数	約40名		
感想	<p>約40名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「初歩の初歩で助かった」「1つ1つ丁寧に教えていただきありがたかった」「今日のようなイベントを今後も行って欲しい」「とても勉強になった」などの感想が寄せられた。</p>		

共創カフェ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	一生モノの英語学習法セミナー		
開催日時	令和7年 12月 20日(土) 10:00 ~ 11:30		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>本学国際教養コースの大山教授と TOEIC を実施する一般社団法人国際ビジネスコミュニケーション協会の有吉氏よりご講演いただいた。</p> <p>有吉氏は、TOEIC について「英語コミュニケーション能力を公平公正に評価する世界共通のテストであるため、取得スコアが自身の英語力の証明になる。TOEIC スコアが入社要件や昇進要件になっている場合もあるので、各企業の業務内容で何が求められているか把握することが必要」とし、「TOEIC の Can Do ガイド活用して自分の現在値を把握し、どこまでできるようになりたいかを明確にしてから目標を設定してほしい」と呼びかけた。</p> <p>大山教授は「ARCS モデル」や「3 段階 (3-step) 音読」について「自分が面白いと思う教材を選び、実力より少し上の教材を使用することで自分に自信がつく。努力が実を結ぶことで次の学習動機につながる」と話し、実際に TOEIC のサンプルテストから引用した文章などを使って 3 段階音読を実施した。最後に「英語を生涯学習の一つとして取り組み、今回のセミナー内容を活用してほしい」と呼びかけた。</p>		
講師	所属・職名	東北公益文科大学 教授 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	
	氏名	大山 慎一 有吉 奈美 氏	
企画者	本学 大山 慎一 教授		
協力団体	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会		
参加人数	51名		
感想	<p>本学学生と教職員、一般市民の方を合わせて 51 名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「とても有益な内容をたくさん聞くことができ、参加してよかったと感じた」「TOEIC に挑戦してみようと思った」「良いモチベーションになった」「どの年代でもためになる内容だった」「楽しく、口も動かし実践することができてとても有意義な講義だった」「現在値を知るつもりで TOEIC を受験、という意識も知ることができて良かった」などの感想が寄せられた。</p>		

学生活動支援

事業名	学生活動支援助成金制度		
目的	本学学生の意欲的な自主活動を支援することで、本学がめざす「大学まちづくり」のさらなる充実を図る。		
	助成金・補助金	事業の目的	採択件数
1	まちづくり活動・研修助成金	学生の自主活動を支援するため、まちづくりに関する活動成果発表・研修・ボランティア活動などで申請のあった学生について、審査の上、「まちづくり活動・研修助成金」として旅費交通費・参加費の一部を助成することとする。	2件
2	大学・地域活性化活動助成金	大学の活性化を目的とした本学学生による自主活動及び地域の活性化を目的とした本学学生による自主活動を支援するため、大学または地域の活性化に関する活動で申請のあった学生について、審査の上、「大学・地域活性化活動助成金」として活動経費の一部を助成することとする。	0件
3	災害復興・防災活動支援助成金	学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）で申請のあった学生について、審査の上、「災害復興・防災活動支援助成金」として活動経費の一部を助成することとする。	0件

【まちづくり活動・研修助成金採択一覧】

No.	申請日	申請者	活動実施代表	活動内容	支出額
1	4月8日	原田陽生		地域留学体験プログラムへの参加	50,000円
2	7月8日	IVUSA 山形酒田クラブ	4年 加藤俊介	山形県日本海沿岸清掃	100,000円

活動の名称	さとのば大学「地域留学体験プログラムLearning Journey」
実施期間	令和 7年 5月 4日 から 7年 5月 6日 まで
活動内容	<p>【どのような活動を、いつ、どのように行ったか】</p> <p>全国7地域で開催されたもののうち、京都府京都市でのプログラムに参加した。千年の伝統や自然と共生する日常が根付き、日本のSDGs先進度2位にも輝く京都で、起業家が集うシェアハウスを拠点に町を巡り、循環型まちづくりに関わるプレーヤー訪問や体験を通して、観光では見られない京都のまちを体感する。 テーマ：「地域に根ざした循環と創造を探究する旅」 集合/解散場所：地下鉄北大路駅 宿泊施設：起行町家 HATCH京都</p> <p>●5月4日（1日目） 13:00 - 14:00 活動開始（参加者同士の自己紹介・交流） 14:00 - 15:00 今宮神社参拝・周辺散策及び説明 15:00 - 16:30 茶の湯体験 16:30 - 17:30 地域循環体験 ①（新大宮商店街周辺の散策及び説明） 19:00 - 21:00 夕飯・地域住民との交流会</p> <p>●5月5日（2日目） 09:00 - 10:00 コンポスト堆肥づくり体験 10:00 - 12:00 地域循環体験 ②（1日目とは別の商店街周辺の散策及び説明） 12:30 - 14:00 賀茂川散策 14:00 - 16:30 上賀茂神社参拝・周辺散策及び説明 17:00 - 20:00 宝が池公園で京都府民、滋賀・兵庫県民との交流会</p> <p>●5月6日（3日目） 09:00 - 11:00 アート体験、京都の芸術面における文化の振興過程について意見交換 11:00 - 11:30 反省会・活動終了</p>
活動の成果	<p>【活動を通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など】</p> <p>今回の活動研修を受け、地域の伝統文化と住民との結びつきを知る良い経験が出来た。今宮神社や上賀茂神社の見学した際に、お祭りの開催を通じて商いが発展してきた過程を伺い、神社と地域のつながりを肌で感じた。地域住民や他地域の人々との関わりの中で、西日本では地域のつながりや文化的背景を生かした住民や民間団体による主体的な取り組みが多いことを知り、その地域ならではの視点や価値観に触れることができ、私の視野を広げる学びとなった。</p> <p>本活動研修の学びを受け、今後の方向性として、庄内地域が抱える課題の解決に向けた活動を起こしたいと考えている。庄内の地域課題として挙げられるのは、空き家問題である。鶴岡市加茂地区は空き家が多いと同時に、高齢化が進んでいる。活動研修直前に加茂地区の現状を知る機会があり、訪問した際に空き家の多さを目の当たりにした。空き家問題を解決するため、本地区内にある水族館や隣の湯野浜地区の温泉施設といった地元資源を活用し、空き家のリノベーションによって地域を活性化させ、やがて庄内地域全体に伝播させたいと考えている。</p>

活動の名称	第14回 山形県日本海沿岸清掃活動 (IVUSAでの名称：山形県日本海沿岸清掃活動14次隊)
実施期間	令和 7年 8月 26日 から 7年 8月 30日 まで
活動内容	<p>【どのような活動を、いつ、どのように行ったか】</p> <p>8/26 大学集合→鳥海温泉遊楽里、結団式→西浜海岸清掃→海浜自然の家 8/27 海浜自然の家→遊佐町十里塚海岸清掃→海浜自然の家 8/28 海浜自然の家→海鮮市場→飛島田下海岸清掃→島内旅館 8/29 島内旅館→飛島田下海岸清掃→海鮮市場→海浜自然の家 8/30 海浜自然の家→遊佐町西浜海岸清掃→鳥海温泉遊楽里→あぼん西浜 (雨天の関係で、当初の日程が変更になりました。)</p> <p>①知識を得る NPO法人パートナーシップオフィスさん(大谷さん、金子さん、岸本さん)から、海ゴミの回収方法、危険物の取り扱い方、なぜ海ゴミを回収する必要があるのか等々、活動が始まる前に知識面をインプットすることで、活動に主体的に取り組める環境を作る。また、活動2日目にパートナーシップオフィスさん(金子さん、岸本さん)からご講話をいただき、海ごみ問題の現状・飛島の歴史なども知ることができた。</p> <p>②学生同士の交流 IVUSA酒田クラブが作成した海ごみかるたやアイスブレイクとしてフォトコンテストを班ごとに実施する。学生同士が交流を深めることにより継続的に問題に取り組める関係性を作る。また、海ごみかるたを通して、学生の間で海ごみ問題に対する意識向上と交流促進を同時に進めることができた。</p> <p>③遊佐町十里塚、西浜、飛島田下海岸 遊佐町十里塚、西浜、飛島の田下海岸の清掃を行う。特に飛島は、ごみの量が本土とは異なるため、参加者に現場で何を感じたか、自分はどうすべきかを、活動後のミーティングで班ごとに話し合う。</p>
活動の成果	<p>【活動を通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など】</p> <p>私は、昨年に引き続き今年も約20人程度をまとめるグループリーダーを務めました。昨年の経験を生かし、また最上級生として効率よく清掃するためにはどうすればいいか、またどうすれば現場を上手く回せるかを考え、実行に移すことができた。今回で6回目の参加になるため、今までの経験を活かし、後輩に対してのアドバイスやフィードバックを行うことで清掃活動での立ち回りはもちろん、海ごみ問題についてもお互いに考えることができ、より深い学びに繋がった。また、活動中にIVUSA酒田クラブが作成した海ごみかるたを全学生で行った。子ども向けに作成したモノであるが、大学生にも十分通用する内容になっており、関東関西学生の方から、海ごみ問題の知識が増えたという言葉をいただき、お互いに知識も深めつつ関係構築の基盤にも繋がった。そして今年も、最終日に現地の方々と一緒に清掃活動を行った。実際に現地の人々の生の声を聞くことで、海ごみ問題の深刻さ、現状、対策というものが具体的にイメージしやすくなった。私はIVUSAの活動以外にも、パートナーシップオフィスさん主催のイベントやゼミを通して清掃活動に積極的に参加をしているので、自分だけ参加せずに、周りの友人などにも声をかけ一緒に海ごみ問題について考える仲間を増やしていきたい。今年山形大学の学生とも何度か活動を一緒にしており、秋も山大生主催のイベント等も控えているので、そのような地域のイベントに積極的に参加し、IVUSAの活動や知名度も広めつつ、地域とのつながりも強化していきたい。最終的には地元の問題を地元の人たちで解決していきたいと思っているので、大学生としてどういうアクションができるのかということも、残り少ない学生生活で考えていきたい。</p>

サービスラーニング支援事業

事業名	サービスラーニング支援事業			
目的	ボランティア活動、地域課題解決等に取り組む学生を対象とした研修会を開催。学生の自発的活動、地域貢献活動の支援を行なう。			
	開催日	タイトル名・テーマ等	講師	役職・職名
1	7月16日 (水) 13:15~14:45	食品ロスとエシカル消費	大西 二郎 氏	公益社団法人日本 消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 東北支部副支部長
2	7月31日 (木) 10:00~11:30	取材の仕方講座	長谷川 結 氏	イト吉デザイン ラボ
3	10月30日 (木) 17:00~18:45	地方商店街はなぜ衰退するのか？ ～100円商店街事業に見る活性化案～	齋藤 一成 氏	NPO 法人 AMP 理事長 内閣府地域活性化 伝道師

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	小野田 葉奈
事業名	食品ロスとエシカル消費		
開催日時	令和7年 7月 16日(水) 13:15 ~ 14:45		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>昨年度開催された山形県主催「やまがたエシカル消費フェスタ」に本学サークル「Liga 食品ロス削減チーム」の学生と大西二郎氏がパネリストとして登壇した繋がりから開催が実現しました。</p> <p>講座では、日本と世界の食品ロスの状況、食品ロスがもたらす環境への影響などについてご講話いただいた。</p> <p>大西氏は「日本では多くの食品を輸入しながら廃棄が多い。一方で世界の11人に1人が飢餓状態にある。また、廃棄の際の運搬や焼却でも多くのCo2が排出されている」と話し、安価な規格外野菜については「活用したい人が多くいるが、農家にとっては収穫・選別・出荷にかかる手間は同等なのに、価格は低く、A級品の価格を低下させてしまうため、作業に見合わない。畑にすきこんで肥料にするのが効果的」とご説明いただいた。</p> <p>参加者に対して「学生が食育活動を行うのはとても素晴らしいこと。今後の活動も応援しています」とエールをいただいた。</p>		
講師	所属・職名	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会 東北支部副支部長	
	氏名	大西 二郎 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	9名		
感想	<p>「Liga 食品ロス削減チーム」に所属する学生6名、一般学生2名、職員1名の計9名が参加した。</p> <p>参加者からは「将来子どもたちや周りに伝えていけるよう行動にうつして経験を増やしていこうと思った」「環境問題や飢餓についてもっと知り、食品ロスは様々な問題と関わっていると再確認していきたい」「食品ロスのみならず目を向けて活動していたため、地球温暖化からも影響を受けていたことを今日始めて学んだ」などの感想が寄せられた。</p>		

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	小野田 葉奈
事業名	取材の仕方講座		
開催日時	令和7年 7月 31日(木) 10:00 ~ 11:30		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室3		
内容	<p>地域共創センター事業「ハタラクカタチプロジェクト」に所属する学生を対象とした勉強会として開催。お招きした講師の長谷川氏からは、2019年度の事業開始時から取材をするにあたってのポイントなどをご教示いただいております、お世話になっている。</p> <p>講座では、取材時のイロハや取材内容を記事にする際のポイント、昨年度発行号の良い点や改善点などについてお話いただいた。</p> <p>長谷川氏は「冊子を作成する際は一目見てどんな企業にするか分かるようにした方がよい。取材では『教えて欲しい、もっと知りたい』という姿勢が大切。文章はリズムが重要で、最初から最後までリズム感よく読めるようになるまで繰り返し読んでみる。企業の素晴らしさを認識し、その気持ちが読み手に伝わるよう企業にリスペクトを持って取り組んで欲しい」と話された。</p> <p>最後に「学生主体で行う『ハタラクカタチ』は素晴らしい活動だと思っている。今年度の冊子も楽しみにしています」とエールをいただいた。</p>		
講師	所属・職名	イト吉デザインラボ	
	氏名	長谷川 結 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	6名		
感想	<p>「ハタラクカタチプロジェクト」に所属する学生4名、職員2名の計6名が参加した。</p> <p>参加者からは「事前準備や文章の書き方、レイアウト、冊子完成までの流れの中を掴むことができ良かった」「不安だったことをたくさん聞くことができ良かった」「いろんな雑誌や本を読んで研究しようと思った」などの感想が寄せられた。</p>		

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	小野田 葉奈
事業名	地方商店街はなぜ衰退するのか？ ～100円商店街事業に見る活性化案～		
開催日時	令和7年 10月 30日(木) 17:00 ～ 18:45		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>観光・まちづくりコースの勉強会との共催として開催。全国的な取り組みとなっている販促事業「100円商店街」の考案者である齋藤氏をお招きし、100円商店街成功の秘訣や地域活性化に込められた思いなどについてご講話いただいた。</p> <p>齋藤氏は『商店街の活性化』の根底には個々のお店の収益の増加がある。『100円商店街』は商品を店外へ陳列、精算は店内のため他商品の販売につなげることが可能で、一度でも店内に足を踏み入れたことがあれば今後の入店への抵抗がなくなる」とし、経済効果についてもご説明いただいた。成功の秘訣は「100円だからこそ遊び心が許され、効果が得られる。集客では、自分で変えられない部分のせいにするのではなく、内側を見ることで改善点が見つかる。固定概念を捨てることが大切」と話された。</p> <p>学生に対して「現代は情報が潤沢なため個人の趣味や好みが分散されている傾向にある。自分がやりたいことを見つけて、いろんなことにチャレンジしてみしてほしい」とエールをいただいた。</p>		
講師	所属・職名	NPO 法人 AMP 理事長 内閣府地域活性化伝道師	
	氏名	齋藤 一成 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体	観光・まちづくりコース		
参加人数	44名		
感想	<p>本学学生 37名、教職員 7名の計 44名が参加した。</p> <p>参加した学生からは、「柔軟な発想を持って、様々な視点から考えてみることの必要性を感じた」「各地の 100円商店街の商品例が斬新で興味深かった」「消費者心理をつかって収益の獲得に繋がっていると聞いておもしろいと思った」「100円商店街の強みや成功の要因などをお聞きすることができて良かった」などの感想が寄せられた。</p>		

地方創生に向けた人材育成事業
「ハタラクカタチ」

事業名	地方創生に向けた人材育成事業 「ハタラクカタチ」プロジェクト
目的	学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く方のライフスタイルを発信した。令和7年度は4社を訪問し、酒田市による「企業見学バスツアー」にも参加し、冊子「ハタラクカタチ Vol.7」を発行した。本学学生に配付するだけでなく、地元高校・近隣大学、県・市などの商工担当課、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。
内容	①「ハタラクカタチ」プロジェクトの組織化 ②プロジェクトメンバーによる勉強会の開催、情報収集・ヒアリング等による企業研究 ③企業への説明・協力依頼 ④企業への取材 ⑤取材企業の冊子作成、若者を中心とした市民への発信 ⑥報告書の作成、発信活動
プロジェクトメンバー	3年：今野美歩、諏佐治香 1年：高谷楽人、村木悠奈、佐々木葵、多田壺颯、藤澤陽葵
取材先企業	<p>【取材先企業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ト一屋 ・株式会社荘内日報社 ・社会福祉法人思恩園 ・株式会社イタガキ <p>【酒田市 企業見学ツアー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社良品計画 ・酒田市 ・株式会社平田牧場 <p style="text-align: right;">(順不同)</p>
冊子	発行部数：5,000部



「ハタラクカタチ Vol.7」はこちらから

受託事業・補助事業の報告

地域共創センターが関わる令和7年度受託事業・補助事業について、報告します。

■受託事業

事業名	酒田市大学連携推進業務委託
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市
実施期間	令和7年4月1日～令和8年3月16日
契約金額	3,000,000円
概要	<p>本学が有する知見を生かし、人材育成や若者の地元定着を図るため、酒田市内に事業所を有する法人、団体もしくは個人事業主及び酒田市内に立地する高等学校と公益大による連携事業や取り組みを行うものとし、受託した。</p> <p>以下の3事業を実施した。</p> <p>①市内企業等と連携して実施する講義の開講 開講3件</p> <ul style="list-style-type: none">・プロジェクト型応用演習「POSデータ分析による売り場改善」・プロジェクト型応用演習「酒田KOEKIマップの作成」・プロジェクト型応用演習「知的な情報システムの提案と実現」 <p>②市内企業等と公益大の学生による交流事業 交流事業1件</p> <p>③市内高校の生徒を対象とした公益大の体験プログラム 開催1件</p>

■補助事業

事業名	令和7年度 公益のふるさとづくり活動補助金 「地域共創による公益のふるさとづくり推進」事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	庄内開発協議会
実施期間	令和7年6月18日～令和8年3月31日
契約金額	800,000円
事業目的 及び概要	<p>令和7年度公益のふるさとづくり活動補助事業では、「地域創生に向けた人材育成事業」「FORUM21 実施事業」「共創カフェ事業」「まちづくり活動・研修助成金、大学・地域活性化活動助成金、災害復興・防災活動支援助成金」「サービ斯拉ーニング支援事業」「学生および大学の地域活動等に関する発信事業」を実施した。</p> <p>「地域創生に向けた人材育成事業」では、本学学生で組織する「ハタラクカタチプロジェクト」のメンバーが、若者の視点で庄内地域の企業の魅力や庄内で働く魅力を伝えることを目的に4社へインタビュー取材を行い、酒田市による「企業見学バスツアー」に参加し3社の取材をした。また、メンバーはやまがたフルーツPR隊としての取材・記事作成、庄内総合支庁主催「庄内の魅力体感・若者交流バスツアー」にも参加した。取材内容を冊子にまとめ発行した。</p> <p>「公益教養プログラム FORUM21」は8回開催、「教養講座共創カフェ」も3回開催した。</p> <p>「まちづくり活動・研修助成金、大学・地域活性化活動助成金、災害復興・防災活動支援助成金」では、地域で活動する学生に助成を行っている。令和7年度は2件の活動へ助成を行った。</p> <p>「サービ斯拉ーニング支援事業」では、ハタラクカタチに所属する学生向けの講座、Liga 食品ロス削減チームに所属する学生向けの講座、観光・まちづくりコースに所属する学生向けの講座を実施した。</p> <p>「学生および大学の地域活動等に関する発信事業」では、「ビジネスマッチ東北」に出展し、本学の教育研究についてPRした。また、共創センターのリーフレットを発行した。随時大学のホームページや共創センターSNSにて積極的な発信を行った。</p>

事業名	令和7年度洋上風力発電人材育成事業費補助金
受託者	産学連携洋上風力人材育成コンソーシアム（幹事校：長崎大学）
委託者	資源エネルギー庁
実施期間	令和7年8月1日～令和8年3月31日
契約金額	22,683,666円（本学分担金は263,000円）
事業目的 及び概要	<p>本学は令和7年度より「産学連携洋上風力人材育成コンソーシアム」に加入しており、本補助金の「参加補助事業者」として263,000円が交付決定されたが実際使用額は25,355円だった。</p> <p>9月8～12日に秋田県内で開催された学生ワークショップ「洋上風力発電と地域との価値共創のために～事業化後の展開と地域共生～」に本学学生が参加した。参加学生からは「秋田県内の見学や講演を通して、洋上風力発電は発電設備としてだけでなく、地域の産業や教育、観光と結びつくことで新しいまちづくりの可能性を生むことを学んだ。学生同士の議論や提案発表の経験は、その後の学習においても地域の視点からエネルギーを考えるきっかけとなった」との感想があった。</p> <p>～産学連携洋上風力人材育成コンソーシアム メンバー～</p> <p>【大学】長崎大学（幹事校）、秋田大学、秋田県立大学、北九州市立大学、千葉大学、新潟大学、国際教養大学</p> <p>【発電事業者】三菱商事洋上風力、東京電力リニューアブルエナジー、JERA、九電みらいエナジー、中部電力、ENEOS リニューアブル・エナジー、RWE、東北電力、住友商事、COPENHAGEN OFFSHORE PARTNERS</p>

発行物のご案内

地域共創センターが令和7年度に発行したパンフレットや冊子を紹介します。

	発行物	内容	作成担当
1	地域共創センターリーフレット	地域共創センターの事業紹介	地域共創センター 事務室
2	冊子 ハタラクカタチ Vol.7	庄内地域企業の魅力紹介	ハタラクカタチ プロジェクト



新聞記事

日付	内容	カテゴリー	媒体
4/16	庄内の魅力伝えたい 三川「菜の花むすめ」4人決定(伊藤紗良さん)(14面)	学生	山形新聞
4/16	菜の花むすめ 42代目4人 魅力発信 三川誕生70周年記念 29日菜の花まつり(伊藤紗良さん)(1面)	学生	荘内日報
4/28	酒田署 少年非行の防止に一役 大学生ボランティアに10人(16面)	学生	山形新聞
4/29	同年代目線で非行防止を 県少年警察ボランティア 公益大生10人に委嘱 酒田署(6面)	学生	荘内日報
5/14	和気あいあい難問に挑戦 公益大で1年生対象に謎解きイベント(5面)	その他	荘内日報
5/21	農業体験通じ少年の居場所作り 酒田地区少年補導員連絡会 サツマイモ植栽で交流(5面)	学生	荘内日報
5/24	“サケの切り身”箸置きに 粘土で手作り お土産にいかが(安藤希祥さん)(12面)	学生	山形新聞
5/30	大量のネギ子ども食堂に無償提供 収穫断念した酒田市の生産農家が申し出 「食」と「笑顔」支える地域共生実践例に(Liga食品ロス削減チーム)(5面)	学生	荘内日報
6/1	日曜インタビュー 遊佐拠点の団体「おでこBASE」代表 安藤希祥さん(20) 若者集う居場所づくり(12面)	学生	山形新聞
6/6	酒田の観光名所学ぶ 公益大生 ガイドに生かす(酒田おもてなし隊)(12面)	学生	山形新聞
6/8	地域観光人『財』酒田おもてなし隊 庄内の魅力学び活動 「楽しいイベント企画したい」 山居倉庫、玉簾の滝など巡り公益大生勉強会(酒田おもてなし隊)(1面)	学生	荘内日報
6/11	荒廃の竹活用 工作楽しむ いろは蔵パーク環境イベント 公益大生“出張”日向里かふえ出展(小関ゼミ)(1面)	学生	荘内日報
6/12	学生のカ SNS見回りに 県警「サイバーパトローラー」委嘱(19面)	学生	山形新聞
6/24	「ダメ。ゼッタイ。」呼び掛け 酒田で薬物乱用防止へ啓発活動(7面)	学生	荘内日報
7/10	カタカナ英語の有用性 公益大「FORUM21」 大山教授が解説(2面)	その他	荘内日報
7/16	公益大小関ゼミ生や「プラクシス」メンバー活動 「日向里かふえ」夏祭りにぎわう(Praxis)(7面)	学生	荘内日報
7/19	酒田・海岸林保全活動 クロマツ林の下草刈り 公益大と山大農生精出す(7面)	学生	荘内日報
7/20	クロマツ守ろう 学生ら下草刈り(10面)	学生	山形新聞
7/20	海ごみ考えるイベント多彩 加茂水族館とカモンマーレにぎやかに(7面)	学生	荘内日報
8/1	公益大生を対象に地元企業見学ツアー 酒田市(1面)	その他	荘内日報
8/29	県内外学生ら 夏の「クリーンアップ事業」展開 美しい庄内浜 ごみはいらない(IVUSA山形酒田クラブ)(12面)	学生	山形新聞
9/2	全国の学生 漂着ごみ回収に汗 酒田、遊佐80人参加 5日間活動 地域住民と交流(IVUSA山形酒田クラブ)(2面)	学生	荘内日報
9/11	初歩的スマホ操作 公益大生が指導を 酒田市民ら学ぶ(ゼロ)(5面)	学生	荘内日報
9/20	公益大生スマホ相談会 講義で発案 サークルが町内会を訪問 高齢者と談笑交え「悩み、たくさん解決したい」(ゼロ)(12面)	学生	山形新聞
9/26	庄内の歴史文化感じて 大学生交流ツアー松ヶ丘開墾場などへ(酒田おもてなし隊、ハタラクカタチ)(12面)	学生	山形新聞
10/1	実データ用い売り場改善「鍋つゆ」売り上げ実践教育 産学官連携 公益大生取り組みスタート(2面)	学生	荘内日報
11/8	「俯瞰の視点 突破口になる」 公益大 100円商店街事業の齋藤さん語る(2面)	その他	荘内日報
11/9	由良海岸きれいに 全国の大学生集い活動-国際ボランティア学生協会-(IVUSA山形酒田クラブ)(2面)	学生	荘内日報
11/12	きれいな砂浜に学生が清掃活動 鶴岡・由良海水浴場(IVUSA山形酒田クラブ)(14面)	学生	山形新聞
11/29	POSデータ分析による売り場改善 年末需要高まる「鍋つゆ」売り上げ増 公益大生企画立案 販売促進図る 配置・陳列アイデア多岐に Aコープやわたで実践へ(5面)	その他	荘内日報
11/30	公益大生と新庄東高生手掛ける ヤタコーラ・ブルーベリー 12月5日から販売 企業とコラボ テイスト選定やデザイン担う(2面)	学生	荘内日報
12/2	中町エリアのにぎわい創出 酒田 学生らアイデア出し合う(1面)	学生	荘内日報
12/10	若者たちが挑む 地域をより良く サカタPJデザイナーズ 初の主催イベント 高校生・大学生 多彩に事業発表(1面)	学生	荘内日報
12/11	小児がん患者支援役立てて レモネードスタンド活動の収益金 日本海総合病院に寄付 公益大(公益レモネードスタンド)(5面)	学生	荘内日報
12/12	小児がん患者を支援 レモネードスタンド活動 公益大生、病院に寄付(公益レモネードスタンド)(16面)	学生	山形新聞

日付	内容	カテゴリー	媒体
12/14	クラフトコーラ自信作できた ティーズファクトリー(鶴岡)、公益大、新庄東高が開発 ブルーベリー入り ラベルもこだわり(10面)	学生	山形新聞
12/31	福祉と連携 スイーツ商品に 公益大生や地元企業 アップサイクルのパウンドケーキ 1月20日販売開始 庄内町ではサツマイモスイーツ 1月上旬まで期間限定「クラッセ」「生活館」で販売(1面)	学生	荘内日報
1/10	クラフトコーラ製造時のリンゴ パウンドケーキに活用 鶴岡の障害者施設開発、20日発売 公益大やホテルなど協力(10面)	学生	山形新聞
1/30	公益大生と遊佐高生 ビジネスプラン発表会 小松さん(遊佐高3年)が優勝(16面)	学生	山形新聞
2/3	公益大 温井教授が最終講義 まちづくり人材育成期待(11面)	その他	山形新聞
2/3	まちづくりは「人」が重要 温井教授最終講義 学生・市民にエール送る 公益大(7面)	その他	荘内日報
2/12	データ分析を基に売り場作りに挑戦 公益大生の成果報告会(10面)	学生	山形新聞
2/14	公益大ゼミ生招き酒田市国際交流協会講座 ニューージーランドから学ぶ共生社会 先進的多文化共生や環境保護 学生が学んだ成果を披露(5面)	学生	荘内日報
2/25	「酒田の新しい景色」探る 生徒・学生と市民一緒に より良い街に 活動報告や討議(1面)	学生	荘内日報
2/26	山形SDGsアクション 出てくる出てくる 発見の種(五十嵐舞衣さん)(18面)	学生	山形新聞
2/27	地域課題解決めざす 取り組み内容を報告 酒田東高生と公益大生(12面)	学生	山形新聞
3/5	公益大生、羽黒高生と連携 「ゆず塩レモンそば」完成 そば処つむぎ新メニュー 味わいすっきり“映える”清涼感(7面)	学生	荘内日報
3/5	ゆず塩レモンそばいかが 鶴岡のそば店 公益大、羽黒高生と開発 10日から提供(14面)	学生	山形新聞
3/15	庄内の海岸きれいに 全国の大学生73人活動 湯野浜、油戸、由良で4日間(IVUSA山形酒田クラブ)(7面)	学生	荘内日報
3/19	カ合わせ砂浜きれいに 鶴岡 県内外の学生らごみ拾い(IVUSA山形酒田クラブ)(12面)	学生	山形新聞
3/21	「気軽に聞ける」「分かりやすい」東北公益大サークル「ゼロ」 スマートフォン教室が好評 高齢者対象 地域に出向き指導(7面)	学生	荘内日報
3/27	東北公益大公立化記念「さくらせんべい」学生サークルと酒田米菓、ト一屋 連携し完成 桜の香りと甘い味付け ト一屋全6店で販売 新入生にプレゼント 大学節目の年 春の訪れ表現(せんべい同好会)(7面)	学生	荘内日報
3/28	春香る「さくらせんべい」 ト一屋、公益大、酒田米菓が共同開発(せんべい同好会)(18面)	学生	山形新聞
4/2	庄内企業の魅力伝える 公益大生「ハタラクカタチ」第7号発行(12面)	学生	山形新聞
4/7	若者目線で庄内の企業紹介 公益大生作成 冊子「ハタラクカタチ」魅力発信(2面)	学生	荘内日報